

ねずみの嫁入り (A3サイズ)

影絵プラネット <http://kageepla.net>



1.

あるところに、とてもかわいいねずみの娘がおりました。

父ねずみと母ねずみに、大事に大事に育てられた娘です。
娘はそろそろお嫁に行く年頃を迎えていました。

でも父ねずみはこう言います。「そう簡単に娘を嫁にやあやらんで。もしやるとしたら、この世の中で一番立派なむこさんでないとイケんぞ。」

すると母ねずみが言いました。

「そいじゃあ、あんた、むこさんを探しに行きましょうや」



2.

そこでねずみの夫婦は、はるばる旅をして、おてんとうさんの近くまでやってきました。

「おてんとうさん、おてんとうさん、この世の中で一番立派なんはおてんとうさんじゃ。たのむけー、娘のむこさんに、なっってくださいらんかのう。」

するとおてんとうさんは言いました。

「いやいや、私なんぞ、雲に隠れてしまえばそれまでだ。一番なのは私ではなく、雲だよ。」

「なるほど、ほんとじゃ。」ねずみの夫婦は雲のもとへ向かうことにしました。



3.

雲のところまでやってくると、ねずみの夫婦は言いました。

「雲さん、雲さん、この世の中で一番立派なんは雲さんじゃ。たのむけー、娘のむこさんに、なっってくださいらんかのう。」

すると雲さんは言いました。

「いやいや、ぼくなんぞ、風が吹けば、吹き飛ばだけさ。一番なのはぼくではなく、風だよ。」

「なるほど、ほんとじゃ。」ねずみの夫婦は風のもとへ向かうことにしました。



4.

風のところまでやってくると、ねずみの夫婦は言いました。

「風さん、風さん、この世の中で一番立派なんは風さんじゃ。たのむけー、娘のむこさんに、なっってくださいらんかのう。」

すると風は言いました。

「いやいや、おれなんぞ、どんなに吹いても蔵はびくともしない。一番なのはおれではなく、蔵だよ。」

「なるほど、ほんとじゃ。」ねずみの夫婦は、自分たちの住む蔵のもとへ戻ることにしました。



5.

蔵の前まで戻ってくると、ねずみの夫婦は言いました。
「蔵さん、蔵さん、この世の中で一番立派なのは蔵さんじゃ。たのむけ一娘のおむこさんに、なったださらんかのう。」

すると蔵は言いました。
「なにを言ってるんだ、ねずみさん。おいらの体はあんたたちのかじった穴でいっぱい。痛くて痛くてかなわないよ。一番なのはおいらではなく、あんたたち、ねずみだよ。」

「なるほど、ほんとじゃ、ほんとじゃ！」ねずみの夫婦はその言葉にとてもおどろきました。
そして……。



6.

蔵の中では、ねずみの結婚式が行われています。
さて、かわいい娘のおむこさんになったのは？
そう、もちろん、ねずみです。

花むこねずみと花嫁ねずみは、うれしそうに見つめ合っています。
そして、それよりもっとうれしそうなのは、父ねずみと母ねずみです。
「やっぱり一番立派なのは、ねずみのむこさんじゃ。」

ねずみの夫婦は、娘の晴れ姿を心から喜び、みんなでにぎやかに祝いました。

いつまでもお幸せに……！

めでたし、めでたし。

<人形>

●父ねずみと母ねずみ（場面1～5）

～注意事項～

▲影絵は、水滴に弱いので濡らさないようご注意ください。

▲台紙のトレーシングペーパーが破けたり、傷ついたりしないようご注意ください。

▲もしも、紙がはがれかけたら、「スティック糊」で軽くとめてください。

（*液体糊は、シワになります）

人形も、軽くスティック糊で固定しているだけです。

裏面カラーフィルターは、セロテープで補整してください。

▲上演は、朗読者、人形を動かす人、影絵をめくる人、と3人で行うとスムーズです。

▲かなりゆっくり朗読したほうがいいようです。

▲お話の文章は、自由に変えて結構です。人形を観ている人の前に近づけるなど、いろいろ試してみてください♪

ねずみの夫婦のセリフは“広島弁”になっています。（最初に上演したのが広島だったため）

▲部屋はなるべく暗くし、後ろから光を当てるのが効果的です。

▲この影絵紙芝居は、皆さんでご利用いただいています。破損にはじゅうぶんお気をつけください